

昭和40年6月1日

563—93

ンと抗生物質投与により治癒し再発を見ない。このことは頸癌根治手術に伴う急性、一過性の原因がその発生に関連すると考えられる。本症は術後速かな立直りを必要とする時期に強い下痢を来すが故に患者の予後を不良に導く危険があり、従つて早期に診断し治療することが必要で、術後管理の上で見落せない合併症の一つと思う。

33. 子宮癌術後の尿路障害（殊に尿管腔瘻の手術的再建について）

（奈良医大）

前山 昌男, 須川 佶, 粟田 正昭
中川二三男, 石橋 尙, 松本 精二

子宮癌根治手術後のわずらわしい後遺症の一つとして尿路障害がある。

殊に尿管瘻の発生は、その原因が手術の徹底さに原因を有するもので、ある程度さけ得られないものである。これが発生に対し予防的措置が取られているが、我々の教室に於ける実状を述べ、又不幸にして発生せる尿管腔瘻に対して手術的尿管再建を行った19例について、その術式並びに成功率を報告する。

第9群 薬物による婦人科治療

34. 産婦人科領域における静注用鉄剤（デキストラン鉄）の大量療法について

（三楽病院）

唐沢 陽介, 寺門 運雄, 中島 雄志
緒方健次郎, 堀口 貞夫

妊娠後半期の強い貧血、第Ⅲ期出血多量、或いは手術前に治療の必要のあるような貧血を伴う婦人科患者等においては短期間に貧血の治療を行う必要があることが多い。このような場合しばしば輸血が行われたが、血清肝炎等の問題もあり、短期間に必要とする鉄量を投与することの出来る鉄剤の出現が期待されていた。デキストラン鉄は遊離鉄イオンを生ずることが少ないために副作用が少ないとされ、この要求を満たすものである。我々は Hb 70%以下の褥婦12例、手術患者3例に本鉄剤 650~1600 mgを2~5日間で静脈内投与を行ない12例に効果を認めた。Hb が正常値になったのは治療開始後2~3週間目であつた。副作用は15例中には認められなかつたが、これらとは別に異和感のために静注を中止し抗ヒスタミン剤の投与により回復した1例があつた。妊娠貧血への応用については胎児への影響もあるため検討中である。

35. イブシラミンの臨床応用について

（大阪通信）足立 春夫, 木下 脩
桑原 公章, 岡山 隆至

機能性出血の成因は内分泌環境の不均衡を第一に挙げているが、本症は決して単一の疾患ではなく一つの症候群であり、然もホルモン動態の簡易で適確な検査法が確立していない現在ではいたずらにホルモン治療を繰返

す事は却つて逆にホルモンバランスの不均衡を招来する事も起り得る。今回、我々は抗プラスミン剤に血管強化、透過性抑制剤である carbazochrome を添加した「イブシラミン」を白井松新薬KKより入手し、機能性出血19例、分娩時出血32例に投与し、線溶系に及ぼす影響からその効果を検索した結果、機能性出血に関しては1~2日で出血量は急減し、止血迄に要した日数は平均4.1日で73.7%の有効性を認め、又、分娩時出血に対しても対照に比し有意の影響を示めす事を知つたのでこれらの成績の詳細を報告し、併せて我が領域に於ける子宮内膜プラスミン活性測定の価値について言及する。

36. diazepam の婦人自律神経失調症に対する治療効果

（静岡県立中央）

後藤 忠雄, 服部 龍夫, 上杉セツ子

私共は diazepam 系新 tranquillizer の diazepam を婦人自律神経失調症に使用したので報告する。

総数39例に1日4~6 mg 1~2週間投与して効果を判定した。又その一部21例は placebo による盲験を行った。

結果は総数39例中35例89.7%に有効であり効果発現迄1~2週間で、即効性がある。

placebo により自覚症や、好転したものが多数あつたが自律神経機能検査成績には影響なく、上記の効果は心理的なものではなく、本来の薬効によるものである。

chlor-diazepoxide の効果と比較した所、常用量、効果発現迄の期間、有効率、自律神経機能検査成績に対す